



MPS ミッション1

2023 トルコ・シリア地震被災地支援

子どもから子どもへ。モノと一緒に心を届け、笑顔にする

活動概要

西大和学園 39 期生有志のボランティアチーム MPS による 2023 年トルコシリア地震被災地の子ども支援

テーマ

同じ子供だから出来る子どもの支援  
モノと一緒に心を届け、子どもを笑顔にする

活動内容

子供向けの救援物資（文具・玩具・子供服・衛生用品等）を関連企業さまに物品寄付頂く、あるいは街頭募金で集めたお金で購入するなどして収集、それを直接被災地の子どもに届ける

2024 年 5 月現時点の状況

MPS の協力お願いに 30 社余りの企業さまが応えて下さり、段ボール箱 400 箱分の支援物資と 200 万円余りの物資購入・輸送資金を確保。現地への送付は、在京シリア大使館のご協力のもと、船便とし、ラタキア港で現地 NGO に引き渡して配給の計画。船は今年 2024 年 3 月に出発、2024 年 6 月にラタキア港到着の予定。



2023.05.02 在日本シリア大使 ナジブ・エルジー氏の西大和学園訪問

活動の経緯 ①

MAKE PEOPLE SMILE、通称 MPS (エム・ピー・エス) は、2023 年 2 月に起きたトルコシリア地震・被災地の子ども支援のため、西大和学園 39 期生 (地震発生当時中学 2 年生) で立ち上げた有志の集まりです。  
きっかけは、地震の起きた日の夜、代表の森 孟子 (もり・もね) がスマホで見た一本の現地動画でした。瓦礫に挟まれたアレポの幼い少女が救助隊に向かって「自分たちを召使にしたいから助けて」と訴えている。幼い子供が、泣きも騒ぎもせずに、「召使」という違和感のある言葉で交渉する姿にショックを受けました。彼女たちは、地震の被災者であると同時に、内戦という人災の被災者でした。「彼女たちのために何かしてやりたい」そんな思いで、森が翌日学校で友人に声をかけ、MPS が生まれました。スタート当初の 5 人のメンバー (柴田 芽依、森下 紗良、宮本 梨紗子、波元 夢悠菜) を含めて、皆、本格的なボランティア活動は未経験でした。義援金を送るといっても、中学生ではたかがしれている。逆に、中学生という同じ子供だからできる、被災地の子ども支援というのは出来ないか。考えた末に、文房具やおモチャ、子供服、女子用の衛生用品など、子供向けの救援物資を、直接現地届けよう! となりました。送る物資は、子ども関連の企業さんをお願いして、余って

いる在庫とかを譲って頂く。お金ではなくモノにこだわることで、「日本からあなた方を想っている」という気持ちを一緒に届け、厳しい環境に置かれている子どもたちを少しでも笑顔に出来たら、と考えました。早い段階でシリアを対象に絞ったのは、送付ルートを見つけようと、国際支援団体に問い合わせる過程で偶然にお知り合いになった青山弘之東京外国語大学教授から、政治的な理由でトルコ以上に国際支援が行き届いていないシリアの現状をお聞きしたからです。多くの支援団体が、物資送付の困難を言い、義援金送付を進めてく中で、先生は私たちの計画を「有意義だ」と評価下さり、在京のシリア大使館を紹介下さいました。こうして送付ルートの目途が立ち、企業さまへの物品寄付をお願いを本格的に始めました。数百の企業に、二度三度と内容を変えて手紙を送り続ける中で、ボツボツとお返事頂けるようになり、最終的に 30 社様余りのご協力を得ることが出来ました。五月には、シリア大使がご家族を伴い、学園まで訪ねてきて下さり、活動報告会の後で、文化部を巻き込んだ交流イベントも開催することができました。直に接する大使は、よい意味で普通のお父さん。握手した手がとても力強く温かでした。幼いお子さんもいらっやっして、「この子達のためにやっているんだ!」とメンバーの土気も高まり、そこからさらに活動にエンジンがかかりました。

MPS の活動にご協力頂いた皆様 (五十音順、敬称略)

大阪北ロータリークラブ、大阪タイル工業組合、株式会社カミオジャパン、株式会社甲山屋、株式会社ゴールドウィン、株式会社サクラクレパス、株式会社ポーネランド、株式会社 Be-A Japan、株式会社 ZOZO、学校法人西大和学園、カワノ株式会社、クワツ株式会社、グンゼ株式会社、華嚴宗大本山 東大寺、第一衛材株式会社、富士倉庫株式会社、マルマン株式会社、平岡史生様

朝日新聞社、産経新聞社、毎日新聞社、時事通信社、株式会社サンテレビジョン、讀賣テレビ放送株式会社

ナジブ・エルジ駐日シリア・アラブ共和国臨時代理大使、三宅浩史在シリア日本国大使館臨時代理大使  
青山弘之東京外国語大学教授、NPO KOMA

The little girl says to the rescuer when he reaches her: Get me out from under this wreckage, sir, me and my sister, and I will become your slave.



活動のきっかけとなったアレポの姉妹の動画



日本赤十字社公式 HP より



NHK クローズアップ現代 (2023/2/27) より



シリアの友ネットワーク @Japan インスタグラムより

社会の厳しさと温かさを身体で学んだ一年間  
国交のない国へ、物資を送る困難

上: 5 人の起ち上げメンバー  
中: 道筋をつけてくれた青山弘之先生  
下: 数百の企業に寄付お願いメール



上: 初めて届いた物品寄付  
中: 近くの企業さまには直接受け取りに  
下: 東大寺での街頭募金



上: シリア大使ご一家来校  
中: 書道部によるパフォーマンス企画  
下: 茶道部主催のお茶会



上: 緊張してガチガチのテレビ取材  
中: 朝日新聞さまの MPS 紹介記事  
下: 毎日新聞さまの MPS 紹介記事



多岐にわたる物資の数量・素材を全て確認。通関に必要なシッピングリスト・インボイス作成に苦戦した。



上: 放課後、隙間の時間に梱包作業。  
中: 半年以上、学校の倉庫を占拠した。  
下: 2023 年末に 10t トラックで搬出。



横浜港に届いた所でまさかの出航停止。宙ぶらりんの荷物はご厚意で富士倉庫さんが引き受けて下さった。



2 か月余りの待機期間を経て 3 月、中学校の卒業式間際、ついに出発。希望峰経由でシリア・ラタキア港へ。



活動の経緯 ②

シリア大使を迎えた 5 月の頃には、チームも 20 名余りにふくらんでいました。企業さまとのやり取りに、集まった物資とお金の管理。「中学生とシリア」の珍しさで声をかけて頂いたメディアへの対応。色々なことを上手くこなそうと、渉外部、財務部、広報課など組織の形を整えましたが、しょせんは中学生、なかなかうまく行きません。肩書に振り回され、チーム内がギクシャクして空中分解しかけたこともあり。企業さまに失礼を働き、学校にクレームが来て先生に謝って頂いたこともあり。集まった物資の保管場所のことで、学校にもたくさん迷惑をかけました。毎回必死で対応し

ながら「先生がもっと助けてくればいいのに」と思うこともありましたが、今振り返れば、そうして突き放して下さったおかげで自分で考え、自分で行動してその責任をとることを身をもって学ぶことが出来ました。リスクを背負いながら成長の機会を下された学校に、今は心から感謝しています。しかし、本当に大変なのは、物資を確保した後、その輸送準備のプロセスでした。まず、輸送手段・ルートが中々決まらない。経済制裁下において正式な国交がない国にモノを送るのは予想以上の困難でした。大使の紹介で NPO KOMA さんとの共同輸送が決まり、ホッ

としたら、次は通関書類の作成。気の遠くなるような作業の上、学校行事が重なり、大いに苦戦しましたが、3 か月越しでついに完了。ぎりぎり 2023 年末に、10t トラックで 400 箱余りを船が出る横浜港に向け、送り出しました。が、荷物が港に届いたその日に、まさかの出航停止。フーン派の紅海船舶攻撃の影響です。宙ぶらりんになった荷物をどうするのか。心が挫けかけましたが、たまたま事情を知った都内の倉庫会社 (富士倉庫株式会社) さんが「再開までこちらで預かりましょう」と面識もない私たちに声をかけて下さいました。連絡を頂いた時の感動は今も忘れません。振り返れば最初か

らいつも綱渡り、行き詰る度、周囲から「もうあきらめろ」と諭されてきましたが、めげずに踏ん張っていると、いつもギリギリの所で、思いもよらぬ「味方」が登場、背中を押してくれました。そんなご厚意のリレーで、MPS の無謀な挑戦は現実のものとなりました。到着した物資は、現地 NGO の手で配給される予定です。その配給が私たちの願い通りになされるよう、在シリア大使もお力添えくださっています。物資が一人でも多くの子どもたちの元に届くまで、その笑顔を協力くださった皆様にしっかりとご報告するまでが、私たちのミッションです。

MPS のこれから

未熟な私たち、子どもだからこそ出来ること

MPS のシリア被災地支援を、皆さんが何の見返りもなく助けて下さったのは、見識ある大人なら気持ちがあっても目を背けるのかもしれない、そんな道を、がむしゃらに突き進む、中学生の拙い真っ直ぐさに共感下さったからだと思います。何も背負っていない子ども故の、モノを見る目の純粋さ。無知で怖いもの知らず故の行動力。子どもだから出来ること、子どもにしか果たせない役割もある——活動を通じて、私たちはこう考えるに至りました。  
災害被災地支援を継続しながら、MPS は今後も、自分たちなりの方法で、社会に働きかけ、全ての人を笑顔にする、Make People Smile の精神を貫いていく所存です。挑むミッションの対象は基本的に「子ども」です。理由は、社会的弱者の最たる存在である子どもの人生が生まれた環境で左右されるアンフェアな状況を何とかしたいという思いともう一つ、子ども達こそが社会の未来を担うという当たり前の事実があるからです。今の制度で解決できない社会問題を解決するのは、次代の新しい価値観です。子ども=未来を守り育てる。このメッセージを、同じ子供である私たちが発信していくことに意義があると考えています。



MPS ミッション 2  
ミライ子ども食堂プロジェクト

「ない方がよい」から「なくてはならない」へ  
子ども食堂を起点とする新しい社会インフラ

「子ども食堂」をベースとして行う、子どもの貧困、それに伴う教育格差への取り組み。一方の児童福祉支援ではなく、「子ども」サイドも子ども同様の方法で社会参画、双方向のソーシャル・ビジネスとして「子ども食堂」をアップデート、持続可能な子どもの成長環境のモデル構築を目指す。

※企画協力: 洛和会ヘルスケアシステム (子ども未来事業)



西大和学園 MAKE PEOPLE SMILE (MPS)

西大和学園 39 期生を中心とする有志のボランティア・チーム。トルコシリア地震 (2023) の被災地支援活動を機に結成された。起ち上げメンバー 5 名でスタート、2024 年 5 月現時点で総勢 30 名余り。渉外・財務・広報・総務に至るまで生徒主体の活動 (先生はアドバイザー兼後見人の立場)。特に子供に関する社会問題への取り組みを旨とする。

私たちの活動の原点にあるのは「一つ地球」への思いです。その同じ地球に住む隣人、友人が困っていたら、手を差し出したい。泣いている子どもがいたら、慰めてやりたい。そんな気持ちで MAKE PEOPLE SMILE を立ち上げました。私たちは、制度対制度ではない、人間対人間の関係のもとに行動します。そうして、自由で平等な世界の未来に向かっていきます。

